【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第２部門第１区分
【発行日】平成17年6月9日(2005.6.9)

【公開番号】特開2002-1076(P2002-1076A)
【公開日】平成14年1月8日(2002.1.8)
【出願番号】特願2000-179347(P2000-179347)
【国際特許分類第７版】
　Ｂ０１Ｆ　1/00
　Ａ６１Ｍ　1/14
　Ｂ０１Ｆ　15/00
【ＦＩ】
　Ｂ０１Ｆ　1/00　　Ｅ
　Ａ６１Ｍ　1/14　５１１
　Ｂ０１Ｆ　15/00　　Ｚ

【手続補正書】
【提出日】平成16年8月27日(2004.8.27)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００５
【補正方法】変更
【補正の内容】
　　【０００５】
　【発明の実施の形態】
　次に本発明の実施例について図面に基づいて説明する。
　図１は本発明の一実施例を示す回路図であり、図２は本発明の他の実施例を示す回路図である。
　本発明の溶液調製装置は、図１に示すように、内部が可動隔壁２３により２室２１、２２に区切られたチャンバー２と、このチャンバー２の第１の室２１に溶解液を供給する溶解液供給ライン１、溶解タンク５、この溶解タンク５とチャンバー２の第１の室２１を接続する溶液調製ライン３１、溶解タンク５とチャンバー２の第２の室２２を接続する溶液調製ライン３２、溶解タンク５と第２の室２２の間に設けられた移送ポンプ４、溶解タンク５で調製され第２の室２２に移送された溶液をユースポイントまで移送する溶液移送ライン６、とを含んでなる。ここで、移送ポンプ４は第1の室２１と溶解タンク5の間に設けてもよい（この場合作用が若干異なる）。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１０
【補正方法】変更
【補正の内容】
　　【００１０】
　【発明の効果】
　以上説明してきたことから明らかなように、本発明の溶液調製装置を採用すれば、エアーフィルターや攪拌ポンプを必要とせず、また送液ポンプも減らすことができるので、コスト的に有利である。また、大きな溶解タンクを必要としないので装置全体の小型化が可能である。さらに送液ポンプを１つしか使用していないので、動作音を大幅に低減することができる。
【手続補正３】
【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】符号の説明
【補正方法】変更
【補正の内容】
【符号の説明】
１　溶解液供給ライン
１１、１２　開閉弁
２　チャンバー
２１　第1の室
２２　第2の室
２３　可動隔壁
３１、３２　溶液調製ライン
３１１、３１２、３２１、３２２　開閉弁
４　移送ポンプ
５　溶解タンク
５１　液面検知センサー
６　溶液移送ライン
６１、６３　開閉弁
６２、６４　圧力ゲージ
７　粉末供給手段
８　第2の溶解液供給ライン
８１　溶解液供給源
８２　開閉弁
９　第2のチャンバー
９１　第1の室
９２　第2の室
９３　可動隔壁